江南市まちづくり会議（全体会議）　議事要旨

会　議　名		平成 30 年度　江南市まちづくり会議（全体会議）
日　　時		平成 30 年 12 月 26 日（水）　　午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分
場　　所		江南市役所　3 階　第 3 委員会室
出席者	市民委員	中田　實（学識経験者）、武長　脩行（学識経験者）、 岩井　喜美子（第 1 分科会会長）、 松尾　昌之（第 2 分科会会長）、今井　敦六（第 2 分科会副会長）、 柴田　広美（第 3 分科会会長）、加藤　幸治（第 3 分科会副会長）、 森崎　芳子（第 4 分科会会長）、長尾　恵利世（第 4 分科会副会長）、 小沢　捨雄（第 5 分科会会長）、福田　直樹（第 5 分科会副会長）
	市職員	大岩　直文（第 1 分科会）、倉知　江理子（第 2 分科会）、石坂　育己（第 3 分科会）、 稲田　剛（第 4 分科会）、坪内　俊宣（第 5 分科会）
傍　聴　者		なし
議　　題		１．戦略計画達成状況報告書について ２．その他
資　　料		資料１　江南市まちづくり会議委員名簿（平成 30 年度）【全体会議】 資料２　江南市戦略計画達成状況報告書（案）

◆ 会 議 結 果 ◆

・会議の開催にあたり、企画部長よりあいさつがありました。

１．戦略計画達成状況報告書について

・戦略計画達成状況報告書について、資料２に基づき、事務局より報告がありました。
・分科会において議論された主な内容について、各分科会の会長より報告がありました。
・報告後に行われた、「今後の市民協働の推進について」を中心とした意見交換の内容については以下のとおりです。

【意見交換の内容】

・戦略計画が終了し、今年度から第６次総合計画に移行しているが、「地域経営」から「市民協働」に言葉を置き換えたのは何か考えがあってのことかとの質問があり、戦略計画の策定と合わせて推進してきた「地域経営」や「地域協働」という言葉を、今後、さらに個人単位で浸透させていきたいというステップアップの想いを込めて、現在は「市民協働」という言葉を用いているとの回答がありました。
・地域ボランティア団体や参加者について、65 歳の定年後に参加するという考え方よりは、早くから、年代に応じて色々な活動に少しずつ参加してもらうことが重要であり、急に伸びるというものではないという意見がありました。
・各地域で市民協働の主体がお年寄りであったり子どもたちであったり様々なので、行政も一様な支援でなく、きめ細かな支援が重要であり、どう実践していくかを考えていくことが今後 10 年の大きな課題だと感じているとの意見がありました。

・各分野の達成状況を見ると概ね目標達成しているが、個別に見た際に達成率の低い指標もあり、これらにどう対応していくかということを考えていかないといけない。また、指標を作るとそれ以外の取り組みに目が向かなくなりがちだが、全体の達成状況と個別の問題との相互の補完が重要であるとの意見がありました。
・市民と行政との協働も重要だが、行政内部の協働も重要であるが、どのように取り組まれているかとの質問があり、第６次総合計画では「市長の戦略政策」において、部署をまたいで連携する形で政策が進められており、政策決定機関としては、政策会議という会議体があり、そこで各部が情報共有し、協力体制を敷くという形で進めており、以前と比べると横軸での情報共有は進んでいると感じているとの回答がありました。
・地域の実情として感じることは、65 歳まで働かないと生活は成り立たないが、その後、地域に参加しようとしても難しい。また、子どもが減ったことで子ども会の運営も難しいし、その運営主体である親も仕事をしている人が多く参加が困難である。また、スポーツ少年団なども役員の負担は大きく、大変である。一方、地域活動として、有志が子ども食堂を運営したり、地域のスーパーの職員が周辺を清掃しているが、市から表彰等されていないと思われる。そういった地域団体が何かモチベーションを挙げるための取り組みを行政も考えて欲しいとの意見がありました。
・第６次総合計画に関して、指標に挙がっていない問題はどうしていくのかとの質問があり、基本計画の見直しが平成 35 年度にあるので、その際の見直し作業において、市民からの意見も聴きながら反映していくとの回答がありました。
・達成率の低いところのテーマを課題として、その課題を解決していくという捉え方が大事であるという意見がありました。
・成果目標の指標設定について、指標を用いて達成率を確認することは、達成率の低い部分をいかに改善していくかを見るためには有効な手法だと思うが、目標設定を０件とした場合に、実績値が０に近づいたとしても、１件でもあれば達成率が０％になってしまうという点などは、見直していく必要があると思うという意見がありました。
・ＮＰＯの組織の中においても、個人主義が強くなってきており、刹那主義、利己主義が広がる中で、まず自分を第一に考えるようになってきた。また、個人が個人のために使える時間は減ってきており、公のために時間を使うということが非常に難しくなってきているというのが現状ではないかという意見がありました。
・「協働」に対する市民と行政のニーズが一致していないと感じる。個人としてはやりたくても団体に属さないとできない、登録しないとできないような仕組みであり、逆に行政としては仕組みを作らないと実施できないし、補助金等も出しにくいと思う。団体や組織に属したくはないが、手伝えることがあれば、是非、汗をかきましょうという人は非常にたくさんいるので、共助の部分を市民から底上げするような啓蒙・啓発が必要で、その中からリーダーシップを持った人達が自発的に広げていくというような、行政からでなく市民から取り組んでいく必要があるのではないかと感じているという意見がありました。
・江南市の最初のイメージとして一番良いと感じたことは、市民と行政がお互いに共に働こうという意識の市民協働という精神を持っていると感じた。市民ができることは市民でやりましょう、それでもできないことは行政に頼みましょうという意識を持った人達が市内にいるので、団体だけでなく、そういった人達を活かしてほしいとの意見がありました。
・団体に入ると、やらなければいけないことも多く、責任なども重いと感じ、所属することに二の足を踏む。そういった負担をいかにして減らすかが重要であるという意見がありました。

・高齢者福祉について、国が 2025 年を目途に地域包括ケアシステムの構築を目指している。住み慣れた街で、可能な限り暮らし続けられるような、地域の包括的な支援の体制を整えるものであるが、これからは、支援体制の中に専門家だけでなく市民も入ってくる。そういう中で、協働の担い手が増えることを期待しているとの意見がありました。
・ファミリー・サポート・センター事業のように、協働においても、互いのマッチングができるような仕組み作りや周知が担い手の確保につながると思うとの意見がありました。
・子ども会は子どもと親だけでやる訳にはいかないとなると、子どもを大事だと思っている祖父母達にも参加してもらい、そういったところをつなげていくことで、解散しなくても続けていくことができるのではないかという意見がありました。
・行政の新しい役割や期待される役割は何かという質問があり、第６次総合計画の中でも各種団体の力をコーディネートする機能が必要なことを示しており、それに向けて役割を果たしていきたいとの回答がありました。
・協働の中では口を出して一緒にやるという考えが必要だが、全て行政がやるということではなく、つなぐという役割が、行政に求められる役割として大きくなってくると考えているとの意見がありました。
・まちづくり補助事業はとても良い制度なので、応募枠をもう少し広げてほしい。小さな取り組みや、やる気のある人達を拾い上げてほしいとの意見がありました。
・市民の力をどうやって引き出してつなげていくかということが、次の展開として大事なことであり、市全体を見渡し、サポートできる力を持っているのは行政なので、市民の自由を拘束することではなく、むしろ協働の一員として役割を発揮する行政に期待をしているとの意見がありました。

２．その他

・達成状況報告書の公表スケジュールについて、事務局より説明がありました。
・今年度で後期計画期間のまちづくり会議が終了（任期満了）する旨、事務局より説明がありました。